

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2017年10月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2017年10月1日発行 通巻294号



要注意

山での事故が多発しています

10月号目次

| | |
|-------------------|----|
| ・ 目次 | 2 |
| ・ 合同会議報告 | 3 |
| ・ ハイキング委員会リレーエッセイ | 6 |
| ・ 事故防止経験交流集会案内 | 7 |
| ・ ワンコイン講習会案内 | 8 |
| ・ 速報キリマンジャロ登山 | 9 |
| ・ 全国連盟理事会報告 | 10 |
| ・ 全国自然保護口座参加報告 | 12 |
| ・ リニア問題現地集会報告 | 15 |
| ・ 全国女性と登山全国集会案内 | 16 |
| ・ 県連便り | 17 |
| ・ 10月・11月予定表 | 18 |

写真説明

9月19日～10月1日でキリマンジャロ登山に11名が参加した。

10月1日18時30分に無事帰国した。

詳しい報告は、11月号に掲載予定です
タランギーレ・シンバ・ロッジで全員集合

千葉県連合同会議報告

- 1、実施日 2017年9月9日（土）13時～
- 2、場所 船橋市西部公民館
- 3、参加会 ちば山の会（2）・君津ケルン山の会（2）・茂原道標山の会（2）・船橋勤労者山の会（3）・松戸山の会（2）・東葛山の会（2）・千葉こまくさHC（1）・山の会らんたん（2）・千葉民医連山を歩こう会（1）・山の会「岳樺クラブ」（1）・かがりび山の会（1）・岳人あびこ（1）・ふわくHC（2）・市川山の会（2）・まつど山翠会（1）・シリウス山の会（1）
・役員 古瀬顧問（こまくさHC）・広木会長・鶴田副理事長・菅井自然保護委員長（ちば山の会）・桑原ハイキング委員長（松戸山の会）・小林会計担当（まつど山翠会）

4、会議報告

① 合同会議の目的（広木会長）

・創立50周年を迎えた組織には、早急に解決すべき幾つかの問題があります。中でも長期にわたる、役員欠員は深刻な状況です。

2018年3月に予定している、第52期・53期定時総会で役員を選出し、県連活動の正常化をめざす。これは、組織の高齢化に対応し千葉県連の生き残りをかけるものである。

・長期にわたり役員欠員は、県連活動にとっては大きなマイナスが生じている。

② 合同会議の経過報告（広木会長）

・全会参加の合同会議を、2016年6月25日（日）に実施した。実施目的が達成出来なかったため、引き続き、会員数の多い順に6会の代表者・県連理事の合同会議での選出を依頼した。

・6会合同会議の経過報告

- ・第1回合同会議 2016年 7月14日（木）
- ・第2回合同会議 2016年 9月27日（火）
- ・第3回合同会議 2016年11月14日（月）
- ・第4回合同会議 2017年 1月23日（月）

以上、5回の合同会議を実施したが欠員役員の選出は出来なかった。

本日の合同会議において、次期総会に提案出来る新年度役員の選出をお願いしたい。

③ 会議報告（議事録）

TA氏 : 第4回6会合同会議で県連理事会に戻すことになり、半年程経過

したが、どのような話になったかの報告はあったのか？

副理事長：なかなか良い案が出なかった。結果的に理事会で決定出来ずに今回の代表者会議で決める事になった。

会長：どうしても目先の事（役員の人選）にとらわれて、理事会や、各会に対する説明が十分でなく、具体的な討議が十分に出来なかった。

T A氏：6会から各一名を選出する確認であったが、2会だけの選出になった。選出した2会にお願いは出来なかったのか。

副理事長：6会から出た場合という条件で、出ない場合白紙に戻す条件であった。

会長：選出した2会より、他の会からの選出が無ければ辞退するとの意志表示があった。

副理事長：他の会では、どの様な意見が出たのか。

会長：各会の事情によっていろいろな受け取り方があると思う。山の会とは、何なのかから始める必要があるかも知れない。山の会を必要としている人達がいるから会があり、それが県連の活動に繋がらない難しさを感じている。

K F氏：会員数が多いので何とか選出したかった。ハイキングクラブという会であり組織的な山登りの経験がない会員が多く、中々県連の役員まではいかない。少しずつ力をつけているがすぐにはいかない。

F N氏：会員数と言うだけで中身は考慮されていなかった。70歳以上が70人中40人山を案内できない人が多い。自分の会のリーダーでも中々やる人が少なくなっている。

T A氏：6会以外の会の意見はどうか。6会以外では「私の問題ではない」と考えていたのではないか。

会長：理事会や県連からの情報は、ちばニュースだけ。会のHPに載せている会もあるが、あまり読まれていないのではないかと思える。

副理事長：ちば山の会では、運営委員会の中の議論では選出出来ない理由として、今まで出しているのだから……
定例会でも言ったが、県連の活動に参加者が少ない会は県連への関心が全体として低いのではないか。

副理事長：今後の事について議論しましょう。

K D氏：会の高齢化が進んでいる。理事会の内容は話している。出来るだけ6会からの選出をお願いしたい。

C T氏：この先のことについて6会にこだわる必要はない。

ちば山は100名を超えるが、半分は幽霊会員で年配者も多い。運営委員会は入会5～6年の会員が多い。会の役員選出でも長い時間が

かかった。現在、会の中を固める時期と考えている。上の役員まで手が回らないと思っている。

県連では理事が採択権を持っている。理事会で決めるというルールがあっても良いのではないか。

(規約には、理事長は理事会より選出する。・・・とある)

副理事長 : 現状では総会に臨むことは出来ない、何か提案をお願いしたい。

MK氏 : 自会では何も出ていません。 会長何かアイデアはないか。

会長 : あくまでもたたき台ですが、具体的な提案が無かった場合の用意はした。役員会からの提案を提示して説明 (別紙)

TA氏 : 提案は打開策に見えるが、今までと同じで何ら解決策にならない。

会長 : その通りで、6会から全会になった。選出の基本は変わっていない。

MK氏 : 各会に対して、自覚を促す効果はあると思う。

会長 : 各会に持ち帰って検討をお願いします。

CT氏 : 理事が役員を兼任しても良いのではないか。

FI氏 : ここまで来たのだから、これしかないのでは。真剣に検討する。

TA氏 : この提案が通るなら、この場でも決まるのではないか。

KF氏 : 私もそう思う。

SA氏 : 最終はグループで決めるしかない。役の仕事内容をもっと分かりやすくしてほしい。 任期2年を1年にするというのもありか。

FT氏 : 当番になったとき人数割りにすれば、当会からは3人ほど出す事になると思われるがしんどい。

MK氏 : ある程度結論を出した方が良いのではないか。誰が選ばれても立派に出来る。ここで(選出方法を)決めた方が良い。

CT氏 : 持ちかえって、各会の運営委員会で話し合った方が良い。

副理事長 : 提案は各会へ持ち帰って検討してください。提示したグループ分けは、例であり現在は白紙である。

会員の多い会3 中で多い会3 中で小の会の3 少人数の会9
それぞれの中で、A,B,Cのグループを決める。

グループ内で、自主的に希望や推薦等で役員を決める。

会長 : グループ分けは11月の理事会で行う。それまでに各会で話し合う。正直、6会で決まらなかったものが、グループ分けした中で決まるか、という心配も残っている。

所属会があつて県連がある、お互いが協力して相乗効果を期待したい。個人的には、県連の現状を打開するために当会から選出する・私が引き受けるといったサプライズの希望も捨ててはいない。

(文責 広木)

明治時代の地図(第一軍管地方迅速測図)

田中 康男

2017年1月のロングハイキング集合の日、スガイさんが久留里駅から昔の道を通って、北向地藏 横尾番所跡 大福山をかすめて 蔵玉の稜線から 七里川温泉にやって来た。

番所跡はいくつも通っているが、横尾番所跡は、まだなので行くことにした。ネットで調べてみると、著書「房総のやまあるき」に詳しくあり、購入して出かけた。稜線にある道は、基本穏やかで心地よく歩いて、私の好きなマメザクラも楽しんだ。(オフロードバイクが力負けに走り、道が荒れ始めているのだが。) 御番所跡の六面塔・地藏は状態が良く、古をつなぐタイムマシンの感がある。年配者が歩きやすい道でもあって、会の山行に良いのではと、下見に何度も出かけることになった。(今回、坂畑の古老との話しの中で「御番所」と話された。そうだよー と。)

六面塔・地藏は、木之根峠にも・久留里駅手前の俵田駅入り口反対側にもある事を思い出した。俵田の六面塔・地藏を参拝すると、参勤交代の道。案内文の川井原・近くの高谷にある延命寺門前にも六面塔・地藏を発見。(近くの墓地には、灯籠を兼ねた一面は文字の七面塔・地藏が。)

次も探すと、市原市の「立野通り」平野になる境・神代にある神光寺 道路より、1mを超える地藏さま。五井の市街地・波瀾にも、旧道沿いの御堂の中に六面塔・地藏。(大切にされ、発見遅れる。)

私の勝手な思いで道票を兼ねた地藏さまを探索しわけだが、六面塔・地藏熱が冷めた頃 著書「房総の六地藏」千葉県立稲毛中学校 郷土研究クラブ S58 年刊、市原市の中央図書館で教えてもらった。同書から「立野通り」の旧道に四面塔・地藏、川井原・福寿院に六面塔・地藏発見。

行き詰ると、ほんとうの江戸道はどうなっていたのかなーと考え、明治時代に作成された迅速測図に行きついた。市原市の中央図書館で閲覧、コピーを張り合わせると、道はまっすぐで、昔の高速道路。今ある道よりも早めに稜線に上がって、谷・水を避けているようにも。(姉ヶ崎もいっしょに)

以前、江戸の上水歩きで(玉川上水・神田川・千川上水 野火止用水)古地図を買った際、キャンペーンの売り文句が「これがあれば論文が書けますよー。」「騙されないぞー。」と思いつつ 2,500円。

迅速測図は等高線がある、イラストもよい。案外、昔が残っていると感じた。自宅周辺や気になる地点を、明治時代の地図で、確認されてはいかが? 「コピー代で、論文が書けますよー。」

2017 事故防止・経験交流集会の案内

教育遭難対策委員会

掲題の件、昨年の同集会での課題（全国重大事故分析と学習が必要）と本年度の県連発生事故を踏まえ、下記の内容にて行います。

県連では、近年は事故件数は多くないものの、相当の重大事故が発生しております。

従い、各会の事故防止担当者は是非参集されることを期待します。そして、本集会の趣旨（事故の共有化と再発防止 各会交流）に興味ある方と県連諸活動に参加希望の方の参加も歓迎です。

各会よりの積極的な参加を期待します。

記

- 1) 主催 千葉県連盟・教育遭難対策委員会／協力：千葉県連盟救助隊
- 2) 日時／場所 11月11日（土）－12日
11日 13:00<12:00 受付開始>－12日 12:00 終了
大山青少年研修センター 鴨川市平塚 1717-15 04-7098-033
- 3) 内容 11／11 ①今年度の事故に関する報告 13:10－14:30
茂原道標山の会 山の会「岳樺クラブ」 千葉こまくさHC ちば山の会
②全国事故事例のディスカッション 14:40－15:30
事例1：穂高滝谷出合徒渉での事故
事例2：岩場ハイクでの事故
③事例研究発表 15:40－17:00
④救急法等のデモ 17:10－17:40
⑤夕食／各会紹介／交流会 18:00－21:00

11／12 ⑥救急法及び搬送法講習：県連救助隊 8:00－10:00
ロープワーク基礎
必要装備：7点セット：（スリング 60cm2本 120cm1本
カラビナ3<うち環付き1> 補助ロープ 6~8mm*10m）
「ツエルト」
⑦渡渉の模擬実習 <前日の事例研究を踏まえる> 10:10－11:30
- 4) 参加費 3,000円／人。交通は各会毎に。 単日での参加可<費用1,000円>。
- 5) 装備／食事 装備（宿泊用）：卓上コンロ コッヘル クーラーbox 食器等。
食事／飲み物は各会毎に。
- 6) 宿泊設備 風呂、布団、食堂（炊事室）有り。
- 7) 実施規模 40名（スタッフ含む）
- 8) 参加申込／締切 教育遭対委員会 伊東へ10／28まで。mail:itou2385@yahoo.co.jp
会場の都合上、申込多数の場合は、調整する事が有ります。申込書添付。
- 9) 問い合わせ先 教育遭対委員会 岡田：ken-ichi@f4.dion.ne.jp 080-4197-7700

第11回ワンコイン講習

主催 千葉県連盟女性委員会

テーマ

安全登山と

山で役立つ

生涯登山

オレにまかせろ!

お待たせしました!!
第3回・第4回で好評だった安村先生の登場です。
エベレスト登頂の写真を持参して高所登山の話もあります。



講師 安村 淳 先生

1946年生まれ、16歳より山登りをはじめ、岩登りを極め、高所登山ガイドとしてシシヤパンマ、チョー・オユー・エヴェレストなどに登頂。山岳ガイド・危急時対応技師指導員 あんまマッサージ指圧師

実施日 2017年11月19日(日) 15時30から19時

場 所 船橋市西部公民館4階 (JR下総中山駅より徒歩10分)

参加費 ワンコイン(500円) (労山会員外も同額です)

問い合わせ先:千葉県勤労者山岳連盟 ホームページ事務局への問い合わせ

女性委員会では、山仲間と、いつまでも楽しい登山やハイキングを続けるために、過去の遭難事故事などに学び、事故に遭わない取り組みをしています。

同時に、いつでもどこでも出来るトレーニング ・正しいメンテナンス を紹介してきました。

今回は、・山での体のトラブルの原因と対策について、山岳ガイドであり、あんまマッサージ指圧師である、その道の達人・安村先生に学びます。

そこそこ歳を重ねれば、腰・膝の一つ位は痛いもの、正しいメンテナンスをすれば、まだまだ、若い者には負けない・・ヨ。(編集者のひとり言)

<速報>

キリマンジャロ登山隊無事帰国！

ツアー・リーダー： 安彦 秀夫（東葛山の会）

10月1日（日）午後6時10分過ぎに、県連海外委員会募集の『アフリカ最高峰キリマンジャロ登山とサファリ13日間』に参加した11名（男性5名、女性6名）が、興奮冷めやらぬ元気な笑顔で、廣木会長等の迎えの待つ成田空港に降り立ちました。

9月19日（火）に、廣木会長と今回の手配をしていただきました旅行会社の株式会社ワイルド・ナビゲーションの福山さんの見送りを受け、期待と不安を抱きながら飛行機に乗り込んでから、あっという間の2週間でした。

登山スタッフ34名（ガイド、ポーター、コック、ウエイター等）の心温まるサポートを受け、6泊7日の『レモシヨ・ルート』を、テント泊で全員が歩き通しました。

山頂アタック（登山6日目）は、前日深夜23時10分に、バラフ・キャンプ（4673m）を参加者6名とガイド4名で、ヘッドランプを頼りに登山開始し、途中3名がリタイヤしたものの、朝陽に照らされるステラ・ポイント（5756m）に、参加者3名とガイド1名が立ちました。最高峰ウフル・ピーク（5896m）まで残り1時間弱でしたが、時間と体調を考え、記念写真を撮り、皆の待つキャンプ地に走り降りました。

翌日、下山口ムエカ・ゲートで、登山スタッフと一緒に歌と踊りを楽しみ、7日間のサポートに感謝を込め、一人一人にチップを渡し、固い握手をして別れました。

下山後は、サファリ・カー2台に分乗し、荒野に棲息する多くの野生動物を2日間に亘り楽しみました。その中でも、圧巻だったのは『バッファローの大群の大移動』でした。僅か10mも離れていない距離で、全身で味わい興奮し身が震えました。

登山やサファリの詳細を、11月号に掲載したいと思います。乞うご期待！（2017/10/2）



シーラ1キャンプ・3640m

全国連盟理事会・報告

良く聞く事で、とても責任を感じている事があります。

それは、所属会や県連加盟会から「全国連盟の活動が良くわからない」「連盟費分の見返りはあるのか」等の声が最近特に多くなっている事です。

全国連盟の活動は、ホームページや労山ニュースで知る事が出来ます。登山時報は内容も充実している情報誌ですが、有料な事もあり多くの会員の情報誌にはなりきれていません。ぜひ、多くの会員に読んでいただきたいと思います。

現在の千葉県連は、全国連盟の情報が会員個々に配信されている状況ではなく、早急に解決する事が重要であり大きな課題です。

全国連盟理事会は、毎月1回実施され千葉県連からは、広木国昭（ちば山の会）山本尚徳（かがりび山の会）の2名（定員3・1名欠員）が参加しています。

今後も、全国連盟の活動を紹介したいと思います。

今月の議題の重要事項を報告します。

1、遭難対策部会報告・「事故一報」から（報告件数 64件、67名）

- ・死亡事故 2名（ヨーロッパアルプス東京の女性、八ヶ岳沢で滑落埼玉県男性）
- ・転倒 26名（無雪期登山 18名、沢登り 8名）
- ・転・滑落 18名（沢登り 9名、クライミング 5名、無雪期登山 4名）
- ・落石 4名（登攀中、歩行中）
- ・歩行中・登攀中 4名
- ・病気 4名（海外で 2名、クライミング中・無雪期登山 各1名）
- ・虫・動物 3名（マダニ・ヒグマ）
- ・疲労・ビバーク 3名
- ・その他・不明 5名

* 骨折 31件（骨盤・肋骨・胸骨・鎖骨・大腿骨・膝・手指・手首など）

* 損傷 26件（顔面・頭部・手足・脊椎など）

* 高山病・高地排水腫・熱中症 5名

* その他にマダニの報告がある。（千葉県連でも事故一報提出あり）

+ 上位連盟 東京16名 兵庫7名 神奈川5名 大阪・埼玉・福岡 各4名
千葉県連1名（残念ながら、9月30日現在5名となっています）

+ 男女比 男性 31名 女性 36名

+ 年齢別 20代 1名 30代 5名 40代 13名 50代 18名
60代 24名 70代 6名

2、新特別基金委員会からの報告

狭心症の持があり薬を服用し、医者からは「軽いハイキングならOK」との指導を受けている男性（77才）が入山中で、心不全を発症して入院した事例があった。これは、医師の指導範囲を超える山行であった事、今後の類似事故防止の観点から新たに決定された以下の細則を適用した。

細則—8 [疫病が主因となる事故の交付]

疫病が主因の登山事故であることが明白な場合、死亡・障害および入通院の交付については、通常の3分の2の交付内容とする。

これは、交付が3分の2になると言った事でだけでなく、山行中の事故が持病に原因があっても適用がある、新特別基金の優位性を認識して下さい。同時に持病のある方の山行中の事故には、日頃から健康管理を十分に行っていただきたい思いも感じて下さい。

3、自然保護委員会より、リニア新幹線問題についての報告

- ・ 「南アルプスの自然を壊さないで」リニア新幹線計画の凍結、見直しを求める3万名署名を全国的に取り組む、近日中に地方連盟に配布する。
- ・ 「リニア問題検討委員会」(全国連盟理事会内に立ち上げ)を中心に運動を実施して行く、8月31日・9月1日に現地調査を実施した。

「南アルプスの自然を壊さないで」署名活動について
千葉県連では、署名用紙が届き次第、各会に配布します。ご協力をお願いします。
「追原ダム建設阻止」「鬼泪山の山砂採取反対」の取り組みに対し、全国の仲間の署名が大きな力になった事を忘れずに、今回の署名活動に取り組んで下さい。

4、「第8会女性と登山全国集会」の案内について(女性委員会より)

女性委員会が活動を開始して40年を迎えた。中高年女性の事故率の増加を女性の視点で取り組んで来ました。その間の失敗や成功の経験交流を明日からの力にするために参加をお願いします。(実施要項と案内は別紙)

5、「全国自然保護担当者会議」の案内(自然保護委員会)

- ・ 実施日 2017年10月28日(土)29日(日)
- ・ 実施場所 栃木県日光市所野2854 旅の宿・風のひびき
- ・ 基調講演 「労山の自然保護の歴史と今後についての展望」
- ・ 参加費用 8,500円

詳細は別紙で各会に連絡します。

問い合わせ先(全国自然保護委員長 花村哲也：thana@apricot.ocn.ne.jp)
(千葉県連・自然保護委員長 菅井 修)

6、2018年・労山カレンダーの申し込みについて

- ・ 会名入れカレンダーの申し込みは早急をお願いします。
(本来の申し込みは、9月中です)
- ・ 会名入れについては、50部以上は無料です。
20部から49部は版代2,000円です。

千葉県連の取り扱いについて

カレンダー購入は、全国連盟事務局に申し込んでください。

購入代金は、千葉県連でまとめて全国事務局に送金します。

詳細については、すでに案内しましたが、10月理事会で再徹底します。

第 20 回 尾山自然保護講座—夏季特別講座—

「尾瀬でニホンジカとの共生を考える」参加報告

自然保護委員長 菅井 修

【主催】 日本勤労者山岳連盟・自然保護委員会

【参加者】 菅井修(ちば山の会) 小林康男(松戸山翠会) 高橋和子(松戸山翠会)
山本(全国自然保護担当・かがりび山の会)

【場所】 尾瀬・山ノ鼻小屋

【日程】 2017 年 8 月 19 日(土)～20 日(日)

第一日 8/19

12:15 鳩待峠集合→13:30 山の鼻ビジターセンター

14:00-15:30 講演：「みんなの尾瀬をみんなで守るために」
～尾瀬における鹿対策～ 片品環境省自然保護官事務所
庄司 亜香音 氏

15:45-17:00 意見交換

18:00～20:00 夕食・交流会

第二日 8/20

8:00～10:10 尾瀬ヶ原自然観察：山の鼻→牛首（往復）

研究見本園一周 ニホンジカの痕跡、ヌタ場、木道など。

10:10～11:30 山の鼻→鳩待峠 解散

【報告】

昼前から時々小雨が降る不安定な中、2班に分かれ山の鼻へと出発。途中ガイドから登山道脇の小さな花々について解説。山の鼻近く水芭蕉のある湿地に「小熊がいるので興奮させないようそのまま通過してください。」との注意があった。熊は水芭蕉の実が大好物らしい。

講演内容

国立公園とは その管理の仕組み 施設 等

尾瀬では 檜枝岐地区 片品地区とも

自然保護官 1 名、アクティブレンジャー 1 名の 2 名で

尾瀬の調査・保護活動・利用設備の整理等を担当。シカなどによる食害からの保護、尾瀬以外からの外来種の駆除、植生の回復などである。

豪雪地帯である尾瀬はシカの影響を受けずに成立した生態系だったが 90 年代半ばから雪が少なくなる春には主に日光方面からの移動と思われるシカの生息が確認され、10 年程前から急増しミツガシワ、ニッコウキスゲなど多種類の食害が目立つ。夜間尾瀬の木道から定点観測を設定し、季節による変化、経年変化の観察を行っている。

2009 年に決定した「尾瀬国立公園シカ管理方針」では、「尾瀬からシカを排除することを最終的な目標」として捕獲したシカに GPS をつけ、越冬地へ

の行動経路などの調査を行い捕獲適地、時期などを把握し、地元の自治体と協力し2015年までに年平均約190頭を捕獲してきたが生息数の増加と植生の攪乱はとまっていない。2016年夏現在、尾瀬のシカの推定生息数は約1500頭、捕獲目標は、2023年までに半減です。その数約750頭。今年度は指定管理鳥獣捕獲事業交付金を活用し春のみで102頭を捕獲したが被害は続いている。重点地域を設定し柵で囲むことも検討している。意見交換は講演内容のシカについて行われた。

2日目

尾瀬ヶ原を牛首まで往復し現地調査。木道脇のニッコウキスゲの食べられた花の茎が多い。10年ほど前、尾瀬ヶ原は一面のキスゲの花で覆われていた野を思い出すが、今年7月中旬に来たときには、ほとんどなくなってしまった。芽の出る初春にシカに食べられたと思われる。

林道上の定点観測点地点標識



周囲の林から尾瀬ヶ原への鹿道



シカよるミツガシワの食跡



熊による水芭蕉の種の食跡



シカの他に尾瀬ヶ原で目立っ
たのは熊の跡だった。尾瀬ヶ原を
流れる川の近くでは大きな水芭
蕉が多く、その花の後の種はほと
んど食い荒らされ水芭蕉の大き
な葉も踏み倒されているものが
おおい。また熊の通った後は、鹿
跡とは違い大きくなぎ倒されて
いた。牛首からの帰り、100m ほど
離れた木に子熊が 2 頭登って
いるのがみられた。

熊の通った跡



木道の近くに浅い水たまりが目立つ。これは熊やシカのヌタ場はだという。一見池塘とよく似ているが非常に浅く水たまりの縁が池塘のようにモウセンゴケがほとんどない。またミツガシワの根まで食べるなど生態系に大きな影響があるということです。



「リニアで南アルプスを壊さない

8月5～6日 大鹿村現地集会報告

リニア問題検討委員会事務局長

竹本 幸造（静岡県連・安部っ子山の会）

リニア新幹線工事による南アルプストンネル工事が、山梨県に続き長野県大鹿村で始まった。これを危惧する「リニア新幹線を考える登山者の会」は主催し、地元大鹿村の住人である宗像允さん。前島久美さんたちが呼びかけて集会がもたれ、35人が参加した。

開口一番、宗像さんが、地元民また登山者として南アルプスが壊されるのを黙って見過ごして良いのか、立ち止まって自然環境を考えてみる機会にしたいと挨拶した。

続いて、大鹿村の元村長で自身も赤石岳に128回登り、H・EドーンやE・ナウマン、W・ウェストンなど大鹿村を訪れた外国人登山家の来歴を発掘した中山豊氏が、明治期から大正、昭和にかけての赤石岳の変遷を語り、大鹿村や南アルプスの価値を述べた。2人目の講演者は、愛知県の高校で教鞭をとる傍ら、厳冬期には毎年大鹿村を訪れ、数ある氷瀑をアイスクライミングし、大鹿村を桃源郷と評する成瀬陽一氏はその魅力を語ると同時に、こんな素晴らしい村の沢が涸れ、自然環境がリニアトンネルで壊されダンプが走ることになるのは悔しいと語った。

講演後には参加者から報告と意見交換が行われ、続く2部で40人程が参加して村内に立て看板が設置された。

翌6日は、小渋川の支流でありトンネル抗口である蔭山地区、釜沢地区にあたり、工事により渇水期には80%が減るとされる小河内沢の遡行探査が実施された。

帰り林道で、「調査中」の腕章を着けた男の人が望遠鏡の脇で立っていた。何の調査ですか？ と聞くと答えられないと言う。おそらくJR職員で「オオタカ」の調査だと宗像さんは言うが、「村に勝手に入ってきて何をしているが答えられないと言うのは、不審者と言われても仕方ない対応じゃないですか」と強く抗議した。これがJR東海の言う「丁寧な説明」の本質を露呈した姿だとの思いに至った。



参加者の声

大鹿村に行かなかつたら実態を知らなかつたし、自分とは関わりのないこととして過ごしてしまうところだった。大鹿村の実態を広報すると共に、一般の人にも悪影響を伝えリニア建設反対の声をあげ阻止したい。

静岡県連 志村 さん

女性委員会創設 40 周年記念

「第 8 回女性と登山全国集会」

実施要項

2017 年 7 月末日

日本勤労者山岳連盟理事長 浦添嘉徳
女性委員会委員長 藤元理津子

労山に女性委員会が生まれて 40 年を迎えました。
わたしたちは登り続けたい願いを諦めることなく、人としての成長や自立を目指して登山を重ねてきました。この記念集会も、多様な登山の経験を学び合い夢を語りあう機会として開催いたします。全国からの参加を呼びかけます。

日時 2017 年 12 月 2 日(土)～3 日(日)

会場 国立女性教育会館 (埼玉県嵐山市 TEL0493-62-6661)

テーマ 女性委員会 40 年の歴史から学ぶ

「語り合おう登山の楽しさ・厳しさ」

日程

1 日目 12:00 受付開始 13:00 開会

■基調報告 労山女性委員会の歴史と展望…全国連盟女性委員会

■講演 「女性の体の変化と体力作り」

日本ウエルネススポーツ大学教授 石田良恵先生

■分科会

第 1 分科会：若者たちが考える登山 (2 会場を設定)

その 1 = 登山技術と仲間作り その 2 = 子どもたちと登山

第 2 分科会：登山の自立を目指して = 登山の基礎から海外までも

第 3 分科会：多様な山を楽しむ = 中高年からの息の長い登山

第 4 分科会：会運営と仲間作り = 女性の視点で企画、運営の利点

(分科会の助言者名は後日の資料集でお知らせします。)

■夕食と交流会 18:00～

2 日目 8:30 開会

■分科会

(12:00～12:40 昼食)

■全体会

分科会報告、集会のまとめ 14:00 閉会

申し込みの詳細は裏面へ→

▲ 申し込み先

日本勤労者山岳連盟 女性委員会

FAX 03-3235-4324

Eメール jwaf@jwaf.jp

▲ アクセス JR池袋駅から、東部東上線・武蔵嵐山駅下車 徒歩 10分

▲ 参加費 9,000円 (1泊2食+2日目昼食弁当)

振込 郵便振替労山行事事計係(0014-5-563328)

▲ 申し込み締め切り 10月31日(火)

▲ 参加定員 150人 (キャンセル料11月20日より発生) 全国規模の集会です。早めの申し込みを!

▲ 都道府県名 千葉県連盟 所属会 参加者の会名

参加者代表の連絡先 住所・氏名・電話番号

Eメールアドレス

▲ 参加者 住所・氏名・年齢・電話番号 参加希望分科会 第1～第3より選ぶ

▲ 問い合わせ先 全国女性委員会 藤元 理津子

▲ (090-4169-5900)

県連たより

千葉県勤労者山岳連盟（千葉労山）

- ◎ 県連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX： 043-306-1190
Eメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
(県連事務所に常駐者はいません)
- ◎ 加盟会会員の事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax：043-271-4704
全国連盟事務局にも必ず送付の事。
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
発行責任者：広木 国昭

NPO法人「ちば労山ゆう」

「ちば労山ゆう」は、定時総会で2017年度は、定期的な支援活動は実施しない事になりました。会で実施する、支援活動は引き続き支援して行きます。復興支援の気仙沼・石巻の海産物販売は継続して取り組んでいます。

出来る時に

出来る人が

出来る事を

- ◎「ちば労山ゆう」への問い合わせは千葉県連盟ホームページから「ちば労山ゆう」にお願いします
- ◎「食べて復興支援」支援物資の問合せは
広木 国昭
Eメールアドレス
danphiro@zpost.plala.or.jp

【編集後記】

- ・9月9日（土）に、会代表者と県連理事の合同会議が実施された。創立50周年を迎えた千葉県連の組織的な課題である、欠員役員の選出について全会の総意で解決する事が目的であったが、選出は出来なかった。
- ・今年も、労山カレンダーの受付が開始される時期になった。各会でまとめて申し込みをして下さい。購入部数の申し込みは全国事務局に、購入金の支払は千葉県連です。間違いの無いようにお願いします。
- ・女性と登山全国集会在、12月2日（土）・3日（日）に、埼玉県嵐山市で開催されます。今回は、登山はありませんが講演会と分科会が中心です。近県での開催ですので、この機会に全国規模の集会を覗いては如何ですか。
- ◆ ちばニュースに関するお願い。
ちばニュースで一番気になっているのは、どれだけ読まれているかです。感想をお寄せください。（danphiro@zpost.plala.or.jp）
 - ・県連の仲間に、知らせたいこと、会・仲間の自慢話、あなたの会の奇人変人？を紹介してください。各会に一人や二人はいると思います。
 - ・山行報告の投稿をお願いします。特別ビックな山行でなく、里山歩き、裏山探索を歓迎します。そこに生きている生物、自生している野草があれば最高です。
 - ・A-4 1ページ、出来れば写真を1・2枚付けて下さい。

県 連 活 動 予 定 表

| 11月 | | 行事予定 | 10 | 行事予定 |
|-----|---|-----------------|----|------------------|
| 1 | 水 | | 1 | 日 県連キリマンジャロ登山隊帰国 |
| 2 | 木 | | 2 | 月 |
| 3 | 金 | | 3 | 火 県連役員会(県連事務所) |
| 4 | 土 | | 4 | 水 |
| 5 | 日 | | 5 | 木 |
| 6 | 月 | 女性委員会(県連事務所) | 6 | 金 |
| 7 | 火 | 県連役員会(県連事務所) | 7 | 土 |
| 8 | 水 | | 8 | 日 |
| 9 | 木 | | 9 | 月 |
| 10 | 金 | | 10 | 火 |
| 11 | 土 | 事故防止交流集会 | 11 | 水 |
| 12 | 日 | " (大山青年の家) | 12 | 木 |
| 13 | 月 | | 13 | 金 |
| 14 | 火 | | 14 | 土 |
| 15 | 水 | | 15 | 日 |
| 16 | 木 | | 16 | 月 |
| 17 | 金 | | 17 | 火 |
| 18 | 土 | | 18 | 水 |
| 19 | 日 | ワンコイン講習会(西部公民館) | 19 | 木 県理事会(西部公民館) |
| 20 | 月 | | 20 | 金 |
| 21 | 火 | | 21 | 土 |
| 22 | 水 | | 22 | 日 |
| 23 | 木 | | 23 | 月 |
| 24 | 金 | | 24 | 火 |
| 25 | 土 | | 25 | 水 |
| 26 | 日 | | 26 | 木 |
| 27 | 月 | | 27 | 金 |
| 28 | 火 | 組織委員会(県連事務所) | 28 | 土 全国自然保護担当者会議 |
| 29 | 水 | | 29 | 日 (日光市) |
| 30 | 木 | | 30 | 月 教育遭対委員会(県連事務所) |
| | | | 31 | 火 組織委員会(県連事務所) |

発行者 : 千葉県勤労者山岳連盟
 〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
 レジデンス幕張台 101号室
 TEL・FAX 043-306-1190 (常駐者はいません)
 発行責任者 : 広木 国昭(danphiro@zpost.plala.or.jp)
 問い合わせは:千葉県連ホームページ・事務局への問合せまで